

小学校外国語教育の成功に向けて

最近、英語教育（外国語教育）について何度か書いている。

今週も外国語教育について書くことにする。

次期学習指導要領で予定されている内容の大きな変更点のひとつは、小学校3、4年の英語活動導入及び小学校5、6年の英語教科化であろう。

免許の問題、研修の問題、時数確保の問題等様々なものがあるが、ここではそのことには触れずに、別の視点で課題を解決する方策を考える。

結論を先に書くと、小学校教諭が英語に対しての興味を持つことと自主研修を行うことである。

極端な例ではあるが、「来年から小学生に中国語を教えなさい」、ということであれば、相当の困難が生ずるであろう。

小学校教諭は教員免許を取得しているので、中学校から大学まで10年間近く英語を学習しているのである。

英語の教員免許取得のために多くの単位を積み重ねるが、講義90分×15回とそのための自宅学習及び単位修得試験合格で、免許習得の知識（授業を行うこと）の一部が認定される。そのことと比較すると、10年間の英語の学びはすごい量の学習である。

日本では、この10年間学んでも英語が習得されてないでないかとか、英語教育法履修や実習がないではないかといわれる。しかし、あの難しい大学入試の英語を受験しているではないか。英語教育の基本を十分身につけているのである。

このことを「基礎」として考えるならば、後は、小学校教諭一人ひとりが、英語について興味を持ち、自主研修するにつきののである。

例えば、NHKラジオ第二放送の「基礎英語1」を毎日聞いて学ぶのはいかがだろうか。英語を学ぶこととともに、番組構成つまり学習の進め方も参考になる。簡単なら、基礎英語2、3、ラジオ英会話へ進むことができる。Eテレでは視覚でも学ぶことができる。また、英検準2級は、働きながらも十分取得可能である。過去とは比較にならないほど教材がある。

気負わずに、子供と一緒に学ぶスタンスで良いのではないだろうか。担任の先生がALTと話している様子を子供が見たら、子供は先生をカッコよく見ることもあるだろうし、先生を目標にするだろう。

研修や制度改正を待っている時間があったら、明日からでもラジオ講座で学ぶことをおすすめする。

くり返すが、小学校英語科指導のためには、自主研修が一番の研修になるのではないだろうか。楽しんで英語とふれあい、積み重ねで自身を持つことである。

ここでは小学校教諭について書いたが、中学校教諭も英語とふれあい、生徒とともに成長することが望まれる。

修学旅行で、外国人観光客と会話している様子を生徒が見ると生徒は先生に一目置くであろう。がんばってほしい。